

4月13日(火) 南京市

(1)地震緊急避難公園〈震災対策〉

敷地面積16ヘクタール、300万元（約3,900万円）が投資された南京地震公園は、レジャー機能を備えているほか、地震の際には避難場所としての役割を果たす。

公園には、医療ステーションや宿泊エリア、飲用水ステーション、トイレ、食料品保存設備、廃棄物処理場、ゴミ処理場などが整備されているほか、ヘリコプターの駐機場もあり、6,600人が1カ月間生活することができる。

2008年に四川大地震が発生して以来、中国では地震に対する防災意識が高まり、各地で避難施設が整備されている。

2010年上半期公開予定。

南京国防園という公園に設けるべく工事中のため、敷地内には入れず車中より見学した。当園は、子どもが遊びながら国防意識を向上させるために作っており、戦車や大砲などの武器が置かれ、触れるようにしてある。

以前、四川省で大地震があった教訓を受け、当市も災害に備え準備をしておこうということになった。現地の人に尋ねると、自身は60才以上だが、地震の経験はこれまで3回しかなく、しかも小規模のものばかりであったので心配はないのだが、万一のために整備しているという。

整備後は、6,000人が10日間生活できるように飲料水やトイレを用意している。ベンチの座位部をはずすとトイレになり、壁もあり個室になるようにするとのことである。本市にとっても、こんな公園が欲しいものである。



南京国防園外観



南京国防園敷地内

(2)南京大虐殺記念館（正式名称：侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館）

1937年12月日本軍が南京に侵攻し南京城を占領したとき、日本軍が市民に対して行ったといわれる残虐行為を後世に伝えるために建てられたもの。旧日本軍の南京占領から70年に当たる2007年12月に改装工事を終え、開館記念式と犠牲者の追悼式が行われた。敷地内には、日本人によって建てら

れた石碑や植樹された記念樹もある。

・対応者

侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館 芦鵬 館長秘書

2年前の改装工事を終えてから、1,000万人近くが入場したという。全然うれしくない。これでもかというほど丁寧に仕上げている。日本側からの反発があったらいけないと思っているのだろうか。資料は、中国側がありとあらゆる所から集めている。日本軍人の聞き取り調査を行っていたり、新聞、写真も交え、いかに日本人が悪かったかということを見せている。一つの国が、友好国になろうとする日本をこれほどまで悪者扱いするかという感じである。現地の方が我々を日本人だと変な目で見ているのが気になる。

館内に入ると300,000という数字が最初から最後まで表れてくる。当時の状況からして戦争をしているので、殺害もあったと思うが、300,000人は考えられない。当時の人口がそこまであったはずがない。軍人が人民の中にまぎれ反抗したため、その付近と疑いのある人民を殺したと考えられる。我々の調査では1万人くらいでないかと考えられる。

こんなに多くの中国人が入場するのは考えさせられる。ただ最後に「中国が弱かったがためにこんなことになった。我々は団結して強くなければならない。国力を高めよう。」の言葉は正しい。

当時の戦争相手は中国共産党ではないが、現在その中国共産党が200ヶ所以上の反日施設を抱えている状況である。その中でも当館は特化していると感じた。



芦鵬 館長秘書より説明を受ける



同館入り口にある説明文

※ 館内写真撮影不可

(3)南京市人民代表大会表敬訪問

・対応者

南京市人民代表大会常務委員会 黄煌 副主任

南京市人民代表大會常務委員會民族宗教僑務外事委員會 龔世偉 副主任

黄 副主任におかれては、京大医学部卒で福島豊 前公明党衆議院議員と同級生である。鍼灸医として研究され、日本には多くの友人がいて、大阪には森下 医師など友人がいるという。

中国人は日本のことを知らない。日本の民衆も中国のことを知らない。南京事件のことがあるのかもしれない。南京の桜が満開を過ぎたが、引き続き1,000本の植林を行う。

昼間ながら宴席を招かれ、江蘇省産名酒で乾杯。各地で老酒の42度～53度の濃い酒で乾杯されるのはつらい。先方は最高の酒で賓客をもてなしているとのことである。

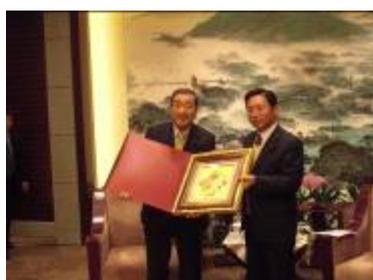
黄 副主任は日本におられただけに時々日本語で語られ、懇談がはずむ。シャープの合弁会社があり、引き続き関心を寄せている。日本は環境面で優れている。南京は2つの重点があり、①上海万博で接待、②4年後のユースオリンピック。

人民代表大会の役割と権限は、①立法権、②決定権、③人事権、④監察権の4つ。要するに、立法、行政、司法のすべての権限を擁す。代表49人、5年任期、8つのパーティ（政党）あり。本人自身、共産党でなく農工民主党。7つの民主党があり、各々の立場で常務委員会を構成している。

また、南京市は日本で最初の姉妹都市を名古屋と結んでいるが、今後は、大阪市と交流を図りたい。大阪－南京間の直行便もあり、文化、伝統のある市であると述べられた。

太田 団長より、黄副主任のおられる間に何か一つ友好を結びたいものだと提案し、①医学、②大学、③先端技術、④教育、⑤文化、⑥博物館、⑦アニメなどで連携してはどうかとかなり活発な意見が出た。

太田 団長より、「大学、医療、医学」「教育、文化」で都市間連携を結び、「学術、文化友好都市」の名称を推したいとの発言があった。



懇談、記念品交換を行い黄煌 副主任を囲んでの記念撮影を行った

(4)日中友好南京柔道館〈スポーツ交流施策〉

上海日本総領事館と南京市人民対外友好協会が共催で開幕した南京ジャパンウィークにあわせて2010年3月1日にオープンした。

ロサンゼルスオリンピック五輪柔道金メダリストの山下泰裕氏が計画段階から関わり、日本政府が無償資金協力として約868万円を供与して同市の体育館施設を改修し完成した。

日本の支援で中国に柔道館ができるのは山東省青島市に続いて2番目。

・対応者

日中友好南京柔道館 劉俊林 館長

中医薬文化諮詢事務所仁和館（南京）商貿有限会社 兔澤和広

山下氏が日中友好のために南京で友好柔道館を開設したとの新聞報道を見て、暗い世の中に未来志向の企画としていいものだと思います、訪問した。

当館は学校内の敷地にある。柔道以外にも数種類の競技を習う学生がいる。ボクシングかテコンドーか。柔道場は、男女別々のようで、今回は女性用の練習場を見学した。30数名の女性が寝技など熱心に練習中であった。

対応いただいた兔澤氏は大阪出身で、当館の開設に貢献され、次は北京に開設すべく努力中である。山下名誉館長の部屋も見学させていただいた。

中国はさきの五輪で女子無差別級で金メダルを取るなど進境著しいところである。

入り口に「大阪市会議員団 熱烈歓迎」旗が張られ、この気持ちに感謝し、この施設の発展を願った。

余談だが、プーチン ロシア大統領は怒っているらしい。



劉俊林 館長、兔澤氏より説明を受けながら練習風景を見学した後、記念撮影を行った

4月14日(水) 上海市

(1)上海港（国際旅客ターミナル等）〈港湾施策〉

1981年10月30日に上海港と大阪港は友好港として提携し、それ以来、親善視察団の相互派遣をはじめ、港湾技術交流、姉妹港・友好港会議等の開催等を通じて友好関係を深めてきている。

大阪港にとって中国は外貿取扱貨物量の半分以上を占め、中でも上海港は全体の2割近くを占める最大の貿易相手港である。

2009年、上海港の貨物取扱量は5億9千万トンに達し、5年連続で世界一、コンテナ取扱量は3年連続で世界2位。

2010年までに製造、物流、ビジネス、教育・研究、住宅が集積した臨港新城が完成する。これらの地区は「洋山保税港区」に指定され、港湾、保税區、輸出加工区の機能を一体化させたエリアとして、輸出入の諸手続きの大幅な短縮や税制面での優遇を受けることができる。

・対応者

上海港国際客運センター 黄海東 副総経理

上海港国際客運センター総合弁公室 周偉明 主任

上海国際港務（集団）株式有限会社総裁事務部外事室 華建珍 主管

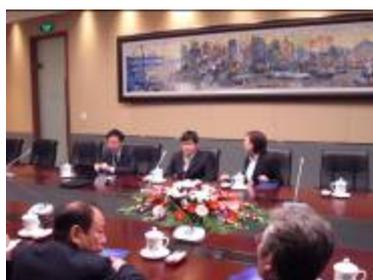
安井 上海事務所長によると、華建珍 主管には、いつも大阪市が大変お世話になっており、今回も視察の受け入れに際して大変お世話になったとのことである。太田 団長より厚く御礼申し上げた。

国際旅客ターミナルは浦東港側にあり、全長1,200メートル、4隻の豪華客船が停泊可能。4隻同時寄港の写真が玄関正面に大きく張り出されていた。最大8万トンクラスの豪華客船に対応できる。1万トン級の内航船に対応していたが、客船向きに工夫を行った。2006年に埠頭部分が完成し、大型クルーズ船の入港が開始された。

世界三大クルーズ社が寄港・母港としている。客船は中国国内、韓国、日本（鹿児島、宮崎、長崎、福岡）、貨物船は五大港と連携している。大阪とはフェリーターミナルで新鑑真、蘇州号が週一回結ばれている。

空港と同じくらい大きく、完全に海外の玄関口という感じ。くじら風の建物といい、岸壁でのオープン化（催事場）といい、夜景を楽しむ庶民の憩いの場といい、まさに市民にとって絶好のロケーションの場として親しまれている。

大阪南港のフェリーターミナルと比べて月とすっぽんの感あり、立派に尽きる。上海は今、まさに観光都市である。大阪はここまでの客船を迎え入れていない。





会議室内で黄海東 副総経理より説明を聴取した後、
ターミナル内の視察を行った

(2) 洋山港・上海東海大橋海上風力発電所〈エネルギー・環境施策〉

国家発展改革委員会が2008年5月に審査・認可した中国初の海上大型風力発電プロジェクト。去る2月27日に全発電ユニット34基の設置が完了した。1ユニットあたりの設備容量は3メガワット、総設備容量は102メガワット。年間発電時間は2,624時間で、年間発電量は2億6,700万キロワット。投資総額は23億6,500万元。

上海市は石炭による発電の比率が比較的に大きいという現状を次第に変えるため風力、太陽エネルギーなどの再生可能なエネルギーの開発に力を入れている。

・対応者

上海東海風力発電有限公司综合管理部 黄偉杰 副主任
上海東海風力発電有限公司 江建平 工程前期業務主管

まず、海上風力発電所について説明を聴取した。

2005年オープン。32.5キロメートルの東海大橋の途中、海上に34基完成している。発電能力は1基あたり3,000キロワットで34基すべてで計10万キロワット。これは中国一の発電能力を誇る。

高さ、羽根共91メートル、重量は400トン。組み立てる際には、部品ごとに持ち寄り、洋山港基地内で組み立てる。1基あたり4日間で組み立て可能とのことである。天気等の影響で作業できるのは年間180日間程度である。各団員より以下のとおり質問があった。

【質問】

・なぜここなのか。電力送電はどうしているのか、なぜ大橋を利用しない

のか。⇒広大な土地が必要なため、陸上では価格的に確保できない。ここは水深が浅い。土地が節約でき、風力がある。

- ・将来規模は。⇒2倍以上の25万キロワット。
- ・政府からの補助金の有無。⇒一部あるが少なく、ほぼ全額近くを4社の企業からの出資金で負担。4社は中国大唐集团公司、上海綠色環境保護エネルギー有限公司、中広核風力発電有限公司、中電国際新エネルギー有限公司。うち3社は電力会社である。



海上風力発電機



黄偉杰 副主任より説明を受ける

続いて、洋山港について視察を行った。

まさに壮大である。小洋山を利用し、2005年12月に第1期部分が開港した新しい港である。第1期部分で、大型コンテナ5バース、年間設計取扱能力220万TEUを備える。2006年12月に第2期部分が完成している。また、ガントリークレーンは、現在70基である。

洋山港の東端に沈家湾があり、ここは天然ガス・ターミナルになる。

当港区には、旧住民が多く、漁業等で暮らしていたが、すべて立ち退き。洋山港以外で水深16.8メートルというのは、どこを探しても、浚渫しても無理であり、洋山港区しかない。上海港は水深10メートルである。

大阪港はスーパー中枢港湾として頑張っているが、ここと天津又は香港、また釜山とも考え合わせれば、撤退するほうがいいとの声が多く出た。むしろ背丈にあった港として生き残りをかけるべきであり、ハブ港とはなり得ないと感じた。大きな船が難なく入港でき、時間をかけずに移動できることが肝要と感じた。



洋山港区の模型を見ながら説明を受ける

(3)上海市人民代表大会親善訪問

・対応者

上海市人民代表大会常務委員会 王培生 副主任

上海市の迎賓館ホテル内、人民代表の常置応接間に通され、王 副主任と一定の挨拶を交わす。王 副主任は新田 元市会議長（2004年時）と面談あり。

太田 団長より、上海港、国際旅客ターミナル、海上風力発電所、洋山港の視察に特別な配慮を賜ったことに対し御礼申し上げた。とりわけ、上海万博会場視察に格別の配慮をくださり、厚く御礼申し上げた。

面談のあと、夕食会に招かれる。

赤ワインにて乾杯。間もなくマオタイ酒に変わる。なぜかと聞くと、マオタイ酒はある場所の限られた麦を原料に作り上げた絶品の酒であり、珍客にのみ提供する最大のおもてなしの酒である。紹興酒は一般酒なので、こういう時は使わないとのこと。

通訳の徐氏は1年半、国際交流課にいて多くの方に世話になりましたとのこと。

いろいろと王 副主任と懇談をする中に、ビザ取得に多大の金を預託しなければならない、金持ちしか出国できない。開放してほしいとの発言があった。これは日本国政府の責任であろうか。他に、上海市の国内でのライバルは。就職状況、特に大学生の就職状況などについて意見交換が行われた。



懇談、記念品交換を行い王培生 副主任を囲んでの記念撮影を行った

4月15日(木) 上海市

(1)上海国際博覧会について

上海万博は、「Better City, Better Life (より良い都市、より良い生活)」をテーマに、2010年5月1日から10月31日までの期間開催される。入場者数目標は7,000万人。

国ではなく都市として参加する機会を提供し、世界の代表的な都市を集め、都市生活の質の向上に向けた各種実践事例を紹介する「ベストシティ実践区」に、日本からは唯一、大阪府と大阪市が共同で出展する。出展テーマは「環境先進都市・水都大阪の挑戦」経済成長とともに環境対策に取り組み、水を活かした持続発展可能な都市づくりを行ってきた大阪の官民の環境技術、先進的取り組みを紹介する。

・対応者

上海万博事務協調局礼賓部 武芸芸

中国2010年上海国際博覧会大阪館 永井隆裕 館長

中国2010年上海国際博覧会日本館 花田美香 副館長

武氏の案内のもと、大阪館、日本館の視察を行った。会場全体が工事中であった。

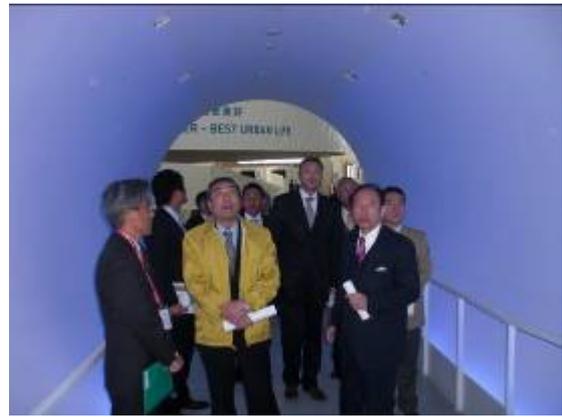
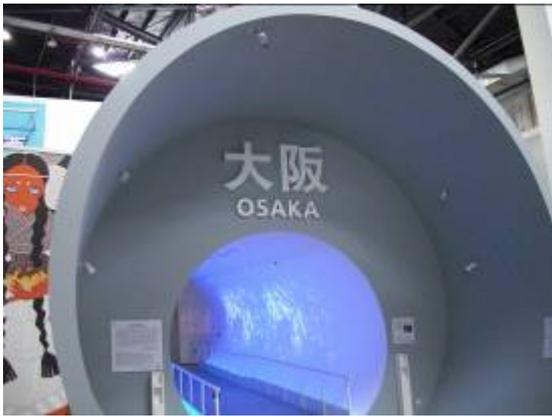
大阪館は、入り口がトンネルになっている。これはなにわ大放水路の直径をそのまま表し、その中を通り抜けて行くようになっている。そこで造幣局の桜の通り抜けを再現した映像が出てくるが、少しピントが甘く、美しさに欠ける。トンネルも何を意味しているか知らないと何だかわからない。

次に、四角い小さな部屋に閉じ込められ、四角四面内で大阪の紹介をする映像が映し出されるが、目がくらくらして早いためよくわからず、気分が悪くなる方も出てくるのではと感じた。

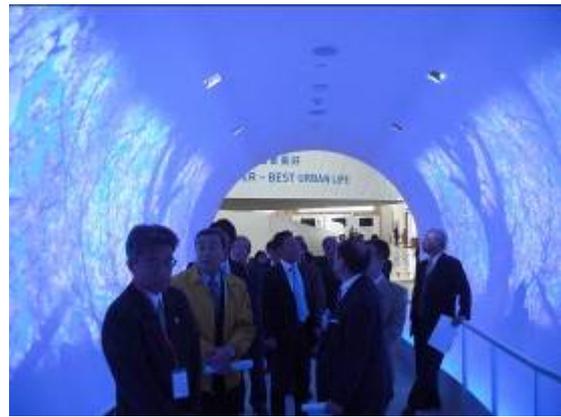
次が、豊臣期大阪図屏風と金のしゃちほこ。これは企画として悪くないが、40年前の万博時と少しも進歩しておらず、がっかりして帰るのではないか。

日本館は工事中のため中へ入れず、花田 副館長からの説明聴取のみに終わった。こちらの方が、環境面でいろいろ工夫していることがわかり、人気が出ると感じた。

○大阪館



「なにわの大放水路」に見合わせたトンネル型の入り口



トンネル内に映し出される四季の映像



「なにわの時空シアター」では水都大阪のこれまでの発展の映像が映し出される



豊臣期大坂図屏風（複製）

大阪大学出展の熱変電技術の体験展示



市立大学・日東電工共同の
逆浸透膜によるろ過技術の展示



関西エリアの紹介を兼ねた
観光プロモーション

○日本館





花田 副館長より説明を受ける

(2)甘泉外国語中学校（姉妹校）訪問

1954年に創立された中高一貫の国立学校。1972年に日本語科を開設し、多くの日本語人材を育てている。

平成13年7月12日に大阪市立勝山中学校との姉妹校提携。相互に体験留学生の受け入れや派遣を行い、国際理解教育を進めている。

・対応者

甘泉外国語中学校 劉国華 校長
甘泉外国語中学校 王志杰 副校長
甘泉外国語中学校 生徒数名

劉国華 校長ほか多数のスタッフに出迎えられ、また、入り口のパネルには「熱烈歓迎大阪市会議員団」の文字があった。

当校の方針は、①国際化、②校内活動、③文化講座（著名人による）、④外国語（英、仏、独、日）、⑤桜植林と文化交流。

1,700人の生徒中800人が日本語を第1語学、独語は100人という。毎年本校から日本への留学生が増えている。また日本からの留学生も50人いる。夏休みには100人程度の生徒が日本へ行くとのことである。これは他国へ行く生徒数より多いらしい。

校舎が美しい。会議室へ通される入り口に「禮」とあり、頭を下げる。入ると、廊下に中国4000年の歴史が足元に示されてある。昨年出来た茶室に入る。畳の新調の臭いが残る。日本の学校に無いのにここにある。さすがと思わせられる。

当校では桜祭りというイベントを10年続けており、その映像が映し出された。学校の方針そのもので、白人も中国人も着物、ゆかたを着て踊り、余興を楽しみ親睦を図るという趣旨である。桜は相当あるようである。

当校は「地元の人」から「地球の人」に養成。世界的視野で教育実践に取り組んでいるとのことである。

【質問】

○こんなに多くの学生さんが日本語を勉強されていることをうれしく思うが、学んだ動機は。

- ・日本のアニメを見て、日本の文化に興味をもった。それで甘泉へ来た。
※「日本大好き、甘泉大好き」との答えに思わず我々の方から拍手あり。

- ・小学生の時、日本人と知り合い、年上の人に50音を教えられ興味をもった。日本語のある学校を選んだ。(語学試験400点満点中391点をとった女子)
 - ・アニメを見て自分でしゃべろうと思い日本語を学び、日本の文化に興味をもった。
 - ・中国人の母を持つハーフ。小さい時日本へ行って、日本文化に興味をもった。日中友好の証へ。
- 日本語をどんな形、分野で生かしたいか。⇒日系文化、デザイナー、音楽。



生徒の案内により学校内施設や授業風景を視察





学校概要の説明、生徒との懇談後、劉国華 校長らを囲んで記念撮影を行った

(3)上海環球金融中心

・対応者

上海環球金融センター 山下努 副総経理

当センターの山下 副総経理の案内により、中国で一番高い（約480メートル）という展望台にのぼる。エレベーターは満員で通常30分待つところを、地下から優先的に上げてくれた。展望スペースには多くの人が景色を楽しんでいた。センターの外観はビンの栓抜きようになっており、上層部は一面ガラス張りになっていて、見晴らしがすこぶるいい。

展望台から見る上海は格別の趣がある。昔、近くのTV塔を訪れた団員によると、当時は何もなく、ここにビジネス、観光等、中国一はおろか、アジア一のセンターができるとは夢にも思わなかったとのことである。しかし、現実に見てみると、マンハッタンより大きく、東京を大きく離す。まだまだ土地の余力があり、世界のビジネスの中心地になる下地があると感じた。当センターは下層部がショッピング、レストラン、ドコモなどが入るなど、ビジネスタワーオンリーではなく、ホテルあり、遊びあり、まさに日本人企画である。

山下 副社長によると、センターのオフィス入居率は60%になったと喜んでいて。また、1,000億の建設費は中国の会社ならでのこと。設計、企画は日本製とのことだが、設計図を渡してしまったので、今後は中国が参考にするだろうということだった。

視察後、山下 副社長にバスまでお見送りいただき、また、てきぱきとした丁寧な対応をいただき感謝申し上げます。

上海の建物、高架道路、飛行場等中国の発展をまざまざと見せつけられる視察で、21世紀は中国の時代であると思いつく超摩天楼であった。



展望台から見る上海市の街並み



上海環球金融中心外觀

●中国訪問で感じたこと

日本は間もなくGDPで中国に抜かれる。これは日本が低下したというより、中国の向上が著しいのである。街づくり、空港、道路、下水、電力、自動車、公衆便所、食事、ホテル事情、セキュリティなどつぶさに見させていただいた。内陸部は見ていないが、この発展ぶりは尋常ではない。人口の多さもあるが、都市化と雇用と環境がものすごく進んでいる。他にタイ、インドネシア、フィリピンなどいろいろ見てきたが、中国は進歩と調査に大変努力していることがわかる。5年後にもう一度訪ねたいものである。

また、北京オリンピックに続くイベントである上海万博が1ヶ月後に迫っているということもあり、各都市で出会った要人には自身が満ち溢れているようであった。

確かに前述したように中国の経済発展のスピードには目を見張るものがあり、特に上海の高層ビル群を見ると、「21世紀は中国の時代」といわれていることにもうなずけるものがあった。共産党の一方独裁体制で国を挙げて経済発展に邁進する、過去、韓国や東南アジアで見られたいわゆる「開発独裁」という手法が機能していた。

特に天津市での、シンガポールとの共同事業である「天津エコシティ」の成否には興味がわいた。「中国バブル」崩壊の懸念もされているが、国家の威信をかけたプロジェクトであり、面子を重んじるお国柄を考えるとしばらくは安泰であると思う。

しかし「民度」という基準で見ると、「先進国」としていかなものかと疑問を持つことが多々あった。歩行者や自転車が平気で赤信号のスクランブル交差点を横断する、列車待ちで割り込みをする、また、マスコミでも取り上げられていたが、上海万博の様々な盗作疑惑など「規範意識」が薄いのではと感じた。今後、先進国として世界のリーダーになるには「心の成熟」が必要ではないか。

最後に、大変お世話になった各市の人代の方々と関係者、大阪市理事者に御礼なり。